

日本ゼオン各事業所

総合開発センター

総合開発センターについて

【設立】

1959 年

【主な機能】

日本ゼオンの研究開発を担っています。川崎を中心に、高岡、水島、徳山の各工場にも研究所を設置しています。生産工場に隣接して研究所を配置することで、研究から生産まで総合的に対応することができます。



研究所全景

事業所の方針(センター長より)

「CSR 基本方針」に則り、研究所員全員が CSR を自覚した研究を行っています。また、コンプライアンスについては、研究活動全般を通じて関連法令を遵守し、事故のない安全で活気に満ちた研究所の実現を目指します。

そのために、2016 年度は事業所の環境安全方針として、声をかけあって全員で安全意識を高めること、危険に気づくこと、自らの健康課題に自発的に取り組むことを掲げ、全員で取り組みます。



取締役常務執行役員 総合開発センター長
三平能之

安全への取り組み

【方針】

- ・所員全員に対する安全衛生管理の意識付け
- ・「実は…」活動などを通じて実際に守れるルールづくり
- ・新規実験の実施にあたっての社内審査会体制の確立
- ・転倒災害の設備的措置による安全確保対策

【具体的な取り組み】

これらの継続的な取り組みが高く評価され、2015 年 7 月に神奈川労働局長優良賞を受賞しました。

2016 年度も、「安全は存在しない。常に存在するのは危険である。」という教えのもと、安全な職場環境をつくり、無事故無災害を目指します。

環境負荷削減の取り組み

【方針】

環境負荷低減活動の推進と産廃ゼロエミッションの維持、CO₂ 排出量削減に取り組んでいます。

【具体的な取り組み】

- ・有機系の排気や酸性ガスの排気などを適切なスクラバーで吸収除害してから大気中に放出
- ・化学物質を含有する液体は廃液缶等に分別し、産業廃棄物として適切な処理を実施
- ・分別廃棄の徹底により、直接埋立処分量ゼロを継続中

品質保証の取り組み

【方針】

2014 年度から 2016 年度の 3 年では、「何が変わっても(ゼオンが変わり、世の中が変わっても)品質保証できる仕組み作りを目指す」という品質保証方針に基づき、品質保証活動を進めています。

【具体的な取り組み】

品質機能展開(3D-QFD)を用いた品質管理

- ・顧客の要求とそれに応えるための製品設計・生産技術をデータで関連付けて管理
- ・管理データを製造・販売・研究で共有することで、製品設計の検証・妥当性確認、標準化、変更管理、技術の伝承などに活用

製品安全性評価(PSR)

製品のライフサイクル全体を想定した製品安全性評価(PSR)を実施し、あらゆる面から製品の安全性を確保

社員とともに

【具体的な取り組み】

- ・リーダー育成教育
- ・階層別教育
- ・共通職能技能教育
- ・職種別専門教育
- ・指導員を任命しマンツーマンによる新入社員への OJT 教育

地域との共生

【方針】

清掃活動や教育支援など、地域社会に喜んでいただける活動を継続して実行する。

【具体的な取り組み】

- ・2013 年 7 月:川崎市と「津波警報等の発表に伴う津波避難施設の使用に関する協定書」を締結。
 - ・2015 年 12 月:「第 17 回 殿町-夜光線沿い歩道の一斉清掃」に参加
(スマートライフスタイル大賞「大賞」として川崎市から表彰)
 - ・インターンシップの受入
 - ・短期インターンシップ(1 週間程度):会社紹介を目的
 - ・中長期インターンシップ(2~3 ヶ月):産学協働イノベーション人材育成協議会での受入
- 2015 年度:東京工業大学、早稲田大学、大阪大学、東京大学、東北大学の計 5 名が参加。今後も年 5 名程度を受け入れる予定